

第13回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

瀉心湯他

診方 § 四 診

峯 尚志



今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○●大黃黃連瀉心湯

●附子瀉心湯

●三黃瀉心湯

●黃連解毒湯

●半夏瀉心湯

●生姜瀉心湯

●甘草瀉心湯

○大黃附子湯

●黃芩湯

●黃芩加半夏生姜湯

●六物黃芩湯

●乾姜黃連黃芩人參湯

オールイエローのラインアップ

黄色い生薬はすべて清熱解毒の薬能を持つ

黄連

黄芩

山梔子

大黄

黄柏

半夏

甘草

乾姜

芍薬

細辛

人参

附子





瀉心湯とは何か

黄連を君薬とする処方群であり

心下中焦脾胃の実邪を瀉する

瀉心とは「心下の痞え感を去る」という意味

瀉心は心にこもった熱をとる

精神的な興奮や緊張を瀉する

健胃生薬の分類

苦味健胃薬

黄連、黄芩、黄柏、センブリ、ゲンチアナ、ニガキ

芳香性健胃薬

桂皮、橙皮、薄荷、茴香、厚朴、丁字

芳香性辛味健胃薬

生姜、乾姜、山椒

健胃薬とは舌の味覚神経を刺激して唾液や胃の分泌をうながし、消化を助ける薬

黄連

- キンポウゲ科の黄連の根茎
- 性味：苦、寒
- 帰経：心、脾胃、肝胆、大腸
- 効能：清熱燥湿、清熱瀉火、清熱解毒
心火を瀉す、胃熱（濕熱）を瀉す
- 応用：胃腸湿熱の嘔吐下痢、心火の不眠、イライラ、肝胆火昇の目赤腫痛、胃熱の消穀善飢、血熱妄行の口内炎
- 黄連は幅広い抗菌作用を持ち、感染性下痢に有効
- 主成分は抗菌作用、胃液分泌作用、止瀉作用を持つベルベリン
- その他、微量のパルマチン、コプチシン、オーレニンなどの苦味アルカロイドを3～7%含む
- 苦みの成分が、舌の味覚神経を刺激して唾液や胃の分泌をうながし、消化を助ける



黄芩

- シソ科のコガネバナの周皮を除いた根茎
- 性味：苦、寒
- 帰経：肺大腸、小腸、脾、胆
- 効能：清熱燥湿、清熱瀉火、解毒、涼血、清熱安胎
- 肺腸の熱をとる、止痢作用、胆汁分泌排泄促進
- 主成分：フラボノイド（バイカルイン、オウゴニン）など
- バイカルインに解熱作用、利胆作用、抗ウイルス作用、抗アレルギー作用、抗炎症作用など
- 応用：熱病の煩熱、肺熱咳嗽、濕熱の痞満下痢、黄疸、胎動不安
- 唾液や胃液の分泌作用もあるが、その他に胆汁分泌作用もあり、脂っこい食事の消化に役立つ
- 薬対：柴胡と往来寒熱を除き、芍薬と下痢を止め、桑白皮と肺火を泄し、山梔子と胸郭火熱を除き、荊芥防風と肌表の熱を清解する



まずは名方 半夏瀉心湯から

半夏瀉心湯

半夏（九分）、黄連（一分半）、
黄芩、乾姜、人參、大棗、甘草（各四分半）

目標は心下部の痞えと嘔気、腹鳴、下痢

自覚的な痞え感：心下痞

他覚的な抵抗：心下痞硬

飲み過ぎた翌朝を考える

アルコールが、胃粘膜を荒らし、
身体は熱をもつ身体はだるく、
むかつきがあり、食欲なく、便はゆるい



熱を持ち炎症を起こしている

胃の熱を冷ます

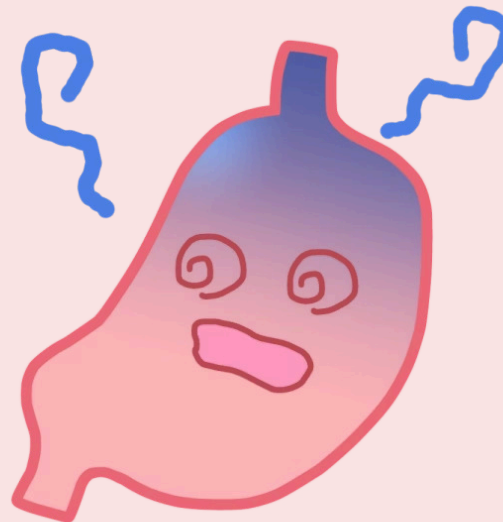
黄連

黄芩

素因に脾虚がある人

黄連、黄芩で胃は冷やされて機能失調に陥る

甘草



乾姜

食欲なく、ぐったりして、何も食べられなくなる。軟便下痢をする。

甘草乾姜で脾胃を温め、脾胃の気を鼓舞する

胃は熱をもちやすく冷えに弱い器官

寒熱錯雑証が多い

辛開苦降甘調の名方

↓ 苦降 苦寒

黄連

黄芩

調和 甘温

甘草

人參

大棗

↑ 昇散 辛温

乾姜

半夏

寒熱の匙加減

黄連解毒湯

熱がこもりやすい。
胃は強い

黄連、黄芩、黄柏、山梔子

半夏瀉心湯

心下部が熱で痞える。
胃はあまり強くない

黄連、黄芩、甘草、乾姜、半夏、人參、大棗

人參湯

心下部が冷えて痞える。
胃が弱い

甘草、乾姜、白朮、人參

○半夏瀉心湯

図の如く、心下痞鞭、
或いは軟実にして雷鳴するもの此の方の証なり
余案ずるに、久しく下痢止まず腹痛する者この証多し、
或いは大便閉し、時々腹痛するものこの証まあり、
余が門、しばしば用いて効ある毎に之れを信ず
或いは心腹疼痛のもの、この証多し
又案ずるに、下痢して後
心下痞硬する者、この証といえども、雷鳴せざるものあり
鑑別
半夏瀉心湯はその雷鳴心下にある
小柴胡湯は胸脇苦満あり
附子粳米湯はその雷鳴腹中にある



半夏瀉心湯の3つのラインアップ

1

半夏瀉心湯

心下部の痞え、嘔気嘔吐下痢、腹鳴

2

生姜瀉心湯

ひねショウガを加える

嘔気、酸っぱいものがあがってくる

3

甘草瀉心湯

甘草を増量する

急迫を治す 精神不穏、下痢の程度強い

生姜瀉心湯

消化を助け、利水して嘔をとる

生姜瀉心湯は、前方の証にして胃中の不和を覚え乾噦（おくび）、食臭、雷鳴、下痢するものを治す
乾噦、食臭は、食穀速やかに化せざる候なりこれ水気胃中に入りて、陽気を抑圧す
乾姜厥を温して結を解すの能ありといえども、かえって氾濫の水を去らず
生姜、よく胃口を開いて、氾濫の水を去り、胃腸をめぐる故に乾姜を減じて生姜を加う

○甘草瀉心湯

甘草（七分）半夏（九分）黄連（一分半）
黄芩、乾姜、大棗、人參（各四分半）

半夏瀉心湯の甘草が四分から七分に増量されている

○甘草瀉心湯

図の如く、半夏瀉心湯の証にして
心煩し心氣安からざる者

この方の証なり

余按ずるに此に心煩というもの
甘草の証なり

甘草は急迫を緩める能あり

且つ腹を新夏するに

心胸急迫して心煩するを知るべし

この心煩すること一ならず

或いは苦満して心煩する者は

柴胡の証を考うべし。

従って図の如く心下痞硬と同時に胸の痞えもある

甘草瀉心湯之図



狐惑病

狐にとりつかれたような精神の不安定な状態

只煩する者は、黄連の証と知るべし

この証、心胸引き張り迫るを指頭に覚ゆ

則ち急迫して心煩し、安からざる者是なり

且つ外証は、その人、

こころ重く眠を好むも目を閉じること能わずして起臥安からず

或いは飲食を欲せず、又、食臭を聞きて悪む

かつその人、**気の放たるごとく精神ただしからざるものあり**

これ所謂、狐惑病の類にして俗に「物の怪」を病むというが如く心気を失うに似たるをいう

これもって考うるに、この証ならば狐惑病と名津来るも当たれりとすべし。

失恋症候群

半夏瀉心湯合甘麦大棗湯

- 失恋症候群またはブロークンハート症候群では、強烈な精神的ショックの後に、膈上部のつまる感じが出現し、膈上部を隔てて気の流通が阻害される。この気滯状態に、日頃から心下にある痰飲が結びつくと熱を帯び上昇して心熱となる。これにより、不眠状態が出現し、またこのために全身倦怠感が表れる。症状が激しいときは号泣する。悲しみは肺を破り、このために肺が肝を相克出来なくなりコントロールを失った肝が涙を出す。ただ号泣することで、心への邪気の侵入を肝が祛邪しているものとも考えられる。
- 著明なストレスにより肝気鬱結が多少あるものの、むしろ心気鬱結の症状がつよく、
布団をかぶって大泣きする。夜も寝られず、このため、昼はだるくて、動けず、無気力状態。
身体所見としては心下痞があり、壇中から中脘あたりまで圧痛を伴う。背部では心俞に圧痛がある。

ゆずるクリニック 原 譲 漢方の臨床62巻11号（2015）

半夏瀉心湯は
感染性下痢、急性胃腸炎にも汎用されるが
激しい腹痛はない

腹痛下痢の汎用処方は、、、、



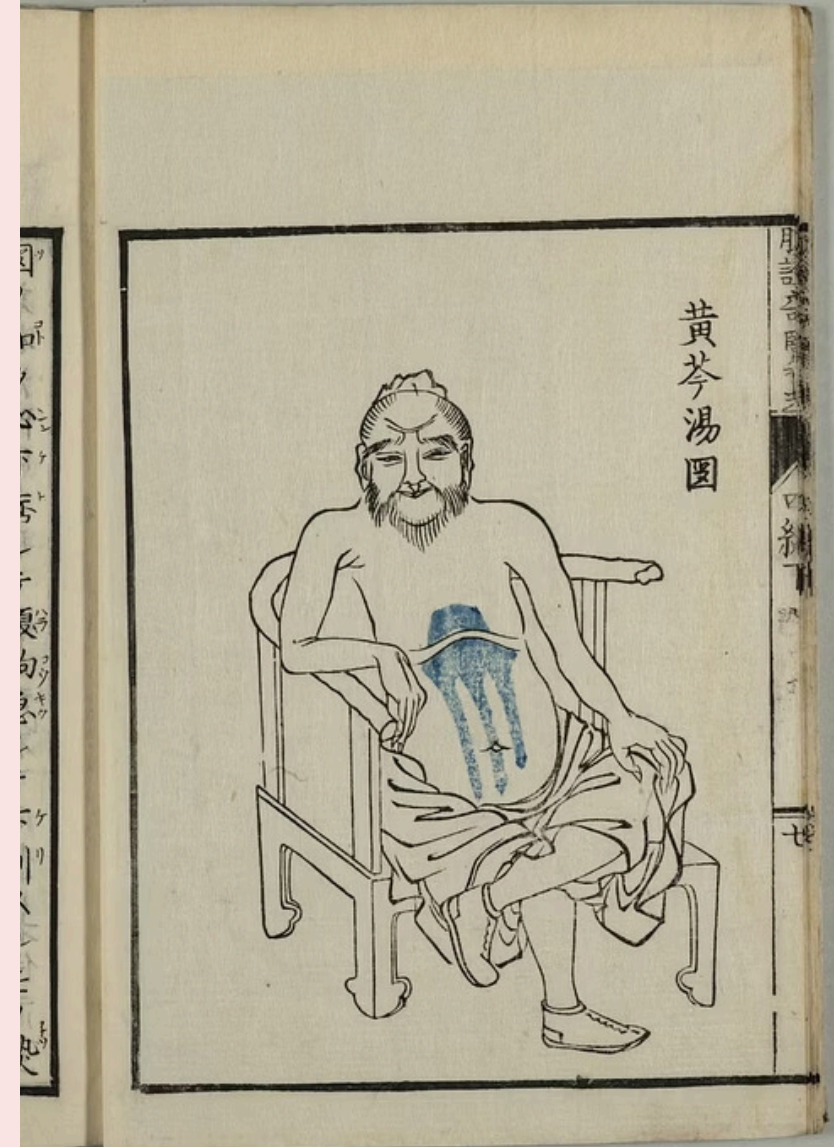
●黄芩湯

黄芩、芍藥、甘草、大棗

黄芩湯

図の如く、心下痞して、
腹拘急して下痢する者は
熱瀉なり、黄芩湯の証となす
その熱を候うもの、
これを口舌に於いてす
乃ち咽渴き、口苦きもの、是れなり
天行痢赤白、裏急、腹痛、発熱、
脈数なるもの
この方を持ちうべし。

図の如く病変が腸管まで及んでいるため、腹部の拘攣がある。



黄芩加半夏生姜湯

- 「太陽と少陽の合病、自ら下痢する者は、黄芩湯を与う
- 若し嘔するものは、黄芩加半夏生姜湯之れを主る」
- 此の方心下の痞を解し、熱をさます、兼ねて血分を和するをもって主とす。熱解し、血和するときは、下痢自ずから止むなり。之れ、合病といえども主とするところは心胸間の熱を解するにあるときは、この治は少陽にあるなり。

六物黄芩湯

黄芩、人参、乾姜、半夏、大棗、桂皮

六物黄芩湯は心下痞鞭、下痢、**発熱**のものを治す

此の方、また天行痢にして、赤白を下して、前証あるものに用い、承気丸を兼用すべし、証に曰く「乾嘔下痢」

乾姜黄連黄芩人参湯

- 下痢、心下痞硬、心煩して「食、口に入れば、乃ち吐すもの、乾姜黄連黄芩人参湯これを主る」
- これ乾嘔なし（半夏なし）
- 食すれば吐し、食せざれば吐せざるなり
- 干姜結滯の水を解し、黄連黄芩、上攻の血熱を治し、人参心下を開き気逆を和す。
- 甘草の甘みはかえって食物を胃にとどめ、嘔気を増強するため使わない

裏寒なく心の熱が主証のもの

大黄黄連瀉心湯

大黄、黄連
振り出しで飲む

黄連

黄芩

大黄黄連瀉心湯は 胃の熱ではなく精神的ストレスにより心下の痞え感を自覚する
他覚的な心下痞鞭は必ずしも目標とならない



○大黃黃連瀉心湯

図の如く、心下痞、之れを按ぜば軟
又、心下痞氣不定の者
臍下より凡そ二寸下、ひそかを指を下して
腹脈の浮脈を考うるに
動に非ず、悸に非ずして、
指頭に自ら浮脈をおぼゆる者はなり
学ぶ者、謹んでこの脈を察して
もってこの指を定極することを知るべし
又いう、本文に心氣不足というもの世に多し
俗にいう、
「よく物忘れして冒する者、甚だしきものは健忘」
と号する、是なり。
一書にいう、心下痞鞭、嘔吐吃逆、あるいは
噎（てい：くしゃみ）するもの此の方大いに効あり

精神の緊張のために腹部の拍動が強くなっているが自覚はない



●大黃黃連瀉心湯

附子瀉心湯、三黃瀉心湯、黃連解毒湯

図の如く、心下痞して一物ある如く覚え
手をもってこれを按ずるうちに
散り失せて何もなく
濡（やわらか）にして
両傍にもまた二大竹を立つる如きものもなく
只、なんとなく、心下の痞をおぼゆるものを
大黃黃連瀉心湯の証とす。

図の如く大便が下腹部に溜まって、脳に熱がこもり心気不定とる。
下腹部に便が溜まっているため、心下部はかえって軟であることがある



大黃々連瀉心湯圖

右治驗亦皆以心下之診得之者宜与図説併考



三黄瀉心湯

黄連、黄芩、大黄

黄連

黄芩

大黄

三黄瀉心湯

- 「心気不定、心下痞するものを治す」
- 瀉心は心中落ち着かずしてトカトカとし、胸に塞がり跳ねるように覚え、手を以て按ずればかえって思うほどに跳らぬもの。
- 瀉心は心中血熱を瀉するの義なり。心は血のそそぐところ、血、陽氣を得て、一身に循環す、陽氣余りあるときは、血上逆して湧き出す
- 吐血、衄血を致す所以なり
- 衝逆病、眼目口舌等の病を治す。



黄連解毒湯

黄連、黄芩、黄柏、山梔子

黄連

黄芩

山梔子

黄柏

黄連解毒湯

- 「熱極、心下煩悶、狂言鬼を見、起走せんと欲す。煩嘔、眠るを得ざるを治す。」

（肘後方：傷寒時氣溫病門）

- 熱性病の急性期あるいは慢性化した実熱証に用いる。
- 君薬の黄連は、心と脾胃の熱を解して不安焦燥を鎮静させ、黄芩は肺や大腸、小腸の熱を解し、咯血、吐血、下血を治し、黄柏は腎、膀胱の熱を解し、利尿作用があり、血尿などを治し、山梔子は肝、心包、三焦の熱を解する。柴胡を加えると肝胆の熱を瀉する効果が強まる。
- 大塚敬節は、高血圧でのぼせ、顔面紅潮、不眠、気分の不安定があるとき、本方に釣藤鈎、黄耆、魚腥草を加えている

裏寒があり新陳代謝が衰えている老人の便秘に
三黄瀉心湯に附子を加える



附子瀉心湯

大黄、黄連、黄芩、附子

大黄、黄連、黄芩は振り出しにして
煮た附子汁を加える

附子瀉心湯

大黄と附子は相性がよい附子で腎を守り代謝を保つ

- 「心下痞、而してまた悪寒し汗出ずる者は、附子瀉心湯之れを主る。」
- 老人で便秘してみぞおちが詰まってきて手足が冷えている人



大黃附子湯

大黃、細辛、附子

温下の処方

大黃

細辛

附子

細辛—附子の薬対をもつ二つの処方肺大腸の冷えを温腎が助ける



細辛

- ウマノスズクサ科サイシンの根をつけた全草
- 性味：辛温
- 帰経：肺腎
- 効能：散寒解表、温肺化飲止咳、祛風止痛、開竅醒神
- 強い止痛作用を持ち、陽虚陰寒による冷え痛みに用いる

○大黃附子湯

図の如く、臍の四辺に毒ありて絞痛忍び難き者
或いは腹底冷寒、或いは身体悪寒するを以て
腹診との眼とすべし
或いは脇下偏痛、あるいは身体冷えて悪寒する者
若しくは臓寒の者
またいう、小腹及び臍傍、或いは臍下の拘攣
急迫して絞痛の者
この方内に於いて芍薬、甘草、各一錢を加えて
大に効あり。



便秘して冷えて腹が痛い



藤平健の目標

- 陰証に属する実証
- 激しい痛み、なるべくは片側痛
- 便秘
- 腹力中より軟らか
- 腹筋の緊張
- 脈は緊が多い
- 老人の便秘で時々強い腸疝痛発作のある患者には特効がある

芍甘黄辛附湯と胆嚢疾患

漢方の臨床 5 巻 10 号 細野史郎

- 体格や健康度が中等度以下
- 慢性で遷延性の緩慢な病的反応をあらわす胆嚢、あるいは胆道疾患にこの方を用いてよい結果をもとめた。

芍薬

甘草

大黄

細辛

附子

構成生薬の再確認

代表的な瀉心湯類の構成生薬

	黄連	黄芩	人參	半夏	大棗	甘草	乾姜	その他			
半夏瀉心湯	○	○	○	○	○	○	○				
生姜瀉心湯	○	○	○	○	○	○	○	生姜			
甘草瀉心湯	○	○	○	○	○	○	○				
三黄瀉心湯	○	○							大黄		
黄連解毒湯	○	○								黄柏	山梔子

腹証のまとめ

- 半夏瀉心湯は胃に熱があるため、心下痞鞭というように心下部に明らかな抵抗がある
- 黄芩湯の場合は腹痛下痢というように、主病巣が腸管にある
- 大黃黄連瀉心湯では便が下腹部に溜まり、鬱熱が脳に及んで心気不定になる。
そのため、下腹部は膨らんでいるが、心下部はかえって柔らかくなる。
- 三黄瀉心湯、黄連解毒湯というように、上中下焦の熱をとる処方の場合、病位が広く及ぶために特定の腹証は定めにくくなる
- 心下の痞えは、胃熱や胃寒によっておこる有形の痞えと、精神症状にともなっておこる無形の痞えもあるものと考えられる

まとめ

- 前回の胸にひきつづき、上焦にある心の熱をさます、瀉心湯類の腹証を学んだ。
- 瀉心湯類は心下部の痞えや下痢という胃腸炎に汎用されるが、黄連解毒湯や三黄瀉心湯のように清熱解毒剤のみの処方、血熱による各種出血や、交感神経の興奮を抑え、精神の興奮を収める意味で高血圧や卒中体質ものに応用される。
- 黄連剤の目標として私はお酒が強い人という目標を持っている。
肥満痩せでなく、肝の解毒能の強い人。
- また脾胃の弱いひとには、黄連剤は使っても甘草、乾姜と合わせ長期に使わないことを心がけている。
- 清熱解毒薬は、抗菌作用をもつものが多く、長期服用による腸内フローラの乱れを生む可能性も考慮したい。